

《東海村村民栄誉賞》

寺門 龍一（てらかど りゅういち）

平成24年1月、「岸」を御題とした詠進歌が選歌として選ばれ、皇居・宮殿で開かれた「歌会始の儀」において披講された。（18,830首の詠進から10首が選歌。氏は、その1人として天皇皇后両陛下に拝謁し、入選作品を披露する。）長年詠進し続けた努力と東日本大震災からの復興を願う詠進歌は多くの村民に勇気と感動を与えた。（平成24年12月6日受賞）

永宮 正治（ながみや しょうじ）

原子核物理研究の世界的権威であり、「J-PARC（大強度陽子加速器施設）」の建設を幾多の困難を乗り越えて成し遂げ、初代J-PARCセンター長として世界屈指となる最先端科学研究施設拠点の確立に多大なる盡力をされる。また、21世紀における科学研究の進歩に貢献するとともに本村の将来に夢と希望をもたらす礎を与えた。（平成24年12月6日受賞）

五十嵐 裕治（いがらし ゆうじ）

平成27年1月、「本」を御題とした詠進歌が選歌として選ばれ、皇居・宮殿で開かれた「歌会始の儀」において披講された。（20,861首の詠進から10首が選歌。氏は、その1人として天皇皇后両陛下に拝謁し、入選作品を披露する。）長年文芸活動を続けた日々の努力と身近にある小さな幸せの光景を詠んだ歌は多くの村民に希望と感動を与えた。（平成27年3月27日受賞）

吉村 真晴（よしむら まはる）

リオデジャネイロオリンピック2016において、卓球競技日本男子団体チームの出場選手として、オリンピックにおける卓球競技日本男子初のメダルとなる銀メダルの獲得に貢献。氏の活躍は、本村の名声を高め、多くの村民に誇りと感動を与えた。（平成29年3月6日受賞）

《東海村文化・スポーツ特別賞》

吉村 真晴（よしむら まはる）

平成23年度全日本卓球選手権大会男子シングルスにおいて全国制覇（史上2人目となる高校生日本一）を成し遂げる。少年時代からのたゆまぬ努力が実を結んだこの活躍は、多くの村民が誇りに思うものである。（他、2011年アジア・ジュニア卓球選手権男子シングルス優勝）（平成24年12月6日受賞）

荒木 奏美（あらかし かなみ）

平成27年10月に開催された第11回国際オーボエコンクール・軽井沢において第1位[大賀賞]及び軽井沢町長賞[聴衆賞]を受賞（日本人・アジア勢では同コンクール史上初の快挙）。幼少時代からのたゆまぬ努力が実を結んだこの活躍は、村内で吹奏楽に打ち込む小中学生をはじめとする多くの村民に夢と希望を与えた。

（平成28年10月8日受賞）

小林 由佳（こばやし ゆか）

第71回国民体育大会（2016希望郷いわて国体）において、山岳競技成年女子の部茨城県代表の出場選手として、リード・ボルダリングの二種の競技で優勝。氏の活躍は、本村の名声を高め、多くの村民に誇りと希望を与えた。

（平成29年1月13日受賞）